１８億円もかけて、保育園の民営化？！

高津西保育園の父母有志

3年で3園連続民営化

八千代市立高津西保育園が民営化（民間移管）されることが、６月の議会できまりました。
来年４月から、運営が社会福祉法人に移管されます。市内の公立保育園１１園のうち、
高津西だけでなく、平成２０年に大田和西保育園、平成２１年に村上南保育園の民営化も決定。
残り８園のうち、八千代台地区の保育園もいずれ統廃合される計画があります。
民営化の目的を、市は「在宅児支援のため」と説明。でも、はっきりとした計画は示されておらず、在宅児の支援をいつから、どのように実施するのかは不明です。

7年間で１8億円の持ち出し！
赤字回収は１7年後。

１園を民営化すると、運営費と補助金で合計１億円。
２園めの民営化で２億円になり、３園めで３億円。
平成２１年度からは毎年３億円の経費が、民間移管された園にかかり続けます。
７年間で１８億円が持ち出しとなり、赤字を回収するまで１７年かかります。
こうしたコスト試算を市民はもとより、市役所内や議会で公開も十分な協議もしないまま、６月議会にはかり、可決を得ました。

「５年後には子どもの数が減り始めるのに、いま３園も連続民営化して１８億円も財政投入する意味があるのか？」という疑問の声は、庁内の他部門からもあがっています。
福祉タクシーが廃止され、成人病検診が有料化されるなど福祉予算が削られるなか、保育園民営化のためだけに多額の税金が使われていいのでしょうか。

これは市民みんなの問題です！！

子育て拠点園となる高津南保育園は駅付近の住民には距離がありすぎてベビーカーではなかなかいけません。

１８億円もかけて、保育園の民営化を急いで行なう必要があるのでしょうか？

民営化の目的は 在宅児の支援」。でも……？

市は、この民営化の目的を「保育園にも幼稚園にも通っていない乳幼児や虐待のリスクをもつ家庭を支援するために、保育士を確保したい。でも公務員を減らさなくてはならないので、新規採用はできない。だから公立保育園を民営化し、浮いた保育士を在宅児の支援にあてたい」と説明しています。「在宅児の支援」という目的自体は、とても素晴らしいものに思えます。でも、緑が丘地区には子育て支援センター的な施設も、児童館も、小学校の空き教室もありません。それなのに、どうやって在宅児の支援が行なえるのでしょうか。いつから、何を行なうのか、具体的な計画はまだ描かれていません。

民営化すると保育の質が下がります。

八千代市の公立保育園は、全国的にみても保育のレベルが高いことで有名です。０歳児保育や看護師・栄養士の常駐配置など、３０年をかけて市と保育士と保護者とが大切に育てた、無形の財産です。それを市は３園も手放し、どんどん減らそうとしています。保育園にはさまざまな事情を抱える親子も多く、経験豊かなベテラン保育士の存在が必要です。

平成１０年から保育士の新規採用がストップしており、私たちは父母会を通して、保育士の新規採用を市に要望しつづけていますが、見通しはたっていません。このままでは保育士が減り、保育の質は低下して、今の子ども達が２０年後に母親・父親になったときに、困ることになります。